

府中市健康地域づくり審議会
第11回熟年元気づくり分科会 報告書

- 1 日 時：平成28年3月14日（月）13時30分から15時00分まで
- 2 場 所：市役所3階第3会議室
- 3 出席者：中野悦成（分科会会長） 宮口英昭（分科会副会長）
重森由枝（分科会委員） 前原裕吉（分科会委員）
藤本命壮（分科会委員） 伊達速人（分科会委員）
守屋綾子（分科会委員）
- 4 欠席者：寺岡 暉（職権委員）

5 概 要

- (1) 開会
- (2) 分科会会長あいさつ
- (3) 議事

①平成27年度熟年元気づくり分科会の活動

●関係資料の説明

事務局から「平成27年度熟年元気づくり分科会の活動」について、資料により報告を行い、「政策目標・目標・現状及び分科会での協議」について意見を求めた。

●質疑・意見交換

【主な質疑・意見】

- 元気高齢者の増加のために、長野県が行った減塩の取り組みのようなことを、見つけることができないかと思う。

②平成27年度の取り組み

●関係資料の説明

事務局から「平成27年度の活動」について、資料により報告を行い、「生きがい創業ビジネス補助金」、「プラチナ大学」、「高齢者の生活を支えるための地域づくり」について意見を求めた。

●質疑・意見交換

【主な質疑・意見】

- 生きがい創業ビジネス補助金の実績報告を分科会で行ってほしい。

- プラチナ大学の広報に、町内会の回覧を使ってはどうか。
- 「元気高齢者の社会参加による高齢者の生活支援体制づくり」のイメージをドラマ仕立てで説明を行えば、非常に分かりやすいのではないか。
- 日常的なコミュニケーションの中から、自主的・民主的な住民自治の力量を育てていかなければ。
- 高齢者の生活を支えるための地域づくりには、人のやる気、組織づくり、施設が関係してくると思う。
- 使われていない施設や建物には、資源になるものが結構ある。北市民病院の4階は使っていないと思うが、老人ホームなどに利用できないか。あるものを上手に生かして発展させたら、高齢者も楽しいまちになるのではないか。
- 県の社協では、高齢者中心の地域包括ケアから、子育てなどの全世帯を対象とした地域包括支援づくりという考え方に変わってきている。

③平成28年度の取り組み

●関係資料の説明

事務局から「平成28年度の活動」について、資料により提案・概要説明を行い、「生きがい創業ビジネス補助金」、「プラチナ大学」、「高齢者の生活を支えるための地域づくり」、「提言書に基づく新たな取り組みの検討」について意見を求めた。

●質疑・意見交換

【主な質疑・意見】

- 生きがい創業ビジネス補助金の交付先として、ボランティア団体は収入があまりなく、経費があまりかけられないので、しっかり実績を見ていかないと継続性の確認が難しいのではないか。
- 行政が全部準備すると窮屈にも感じる。場所を開放するだけでも、市民が集まることができる。
- 市民に対しては、行政用語を取っ掛かりやすい言葉に変えて使ってもいいのではないか。
- 協議体をつくっていくためにも、地域の皆さんが温かい信頼関係でつながっていくことが必要。

(4) 閉会

事務局のまとめとして、来年度以降、提言書に基づく新たな取り組み「育児・

家事支援への高齢者派遣事業」、「コミュニティ・キッチンの開設」について、事業実現に向けて取り組みを進めたいこと、また、本日の分科会の内容について健康地域づくり審議会へ報告させていただくことを述べた。

宮口副会長から、今まで実施してきたことをより皆様に受け入れられやすい形や体制のもとでできたらと貴重な御意見をいただいた、また、さまざまな事業が誰でも参画しやすいような形で実施されるのが一番好ましい、今後もそのような形でできたらなと思っていますと挨拶があり、閉会とした。

以上